

**『(仮称) 会津若松市自治基本条例』草案』についての市民との意見交換会
出された主な意見等 (第1回湊地区)**

□日 時：平成27年7月16日(木) 19:00~20:30

□会 場：湊公民館

□参加市民：6名(湊地区区長)

□市民会議側参加者(事務局含む)：7名

□意見交換(主な意見等)

- ・まちづくりへの意識は様々だが、意識の底上げを図る意味でも条例があった方がいいのでは。
- ・湊はまだコミュニティとしてのまとまりがある方だと思うが、それでも隣に住んでいる方の顔が分からないような環境も一部ある。
- ・次世代のまちづくりの意識を高めるためにも、人材育成は重要だと痛感している。若者がまちづくりに参画しないと地区は不活性になる。
- ・湊地区は中心部から遠く、利便性を求め地区を離れていく若者が多い。結果的に高齢化率は高くなる。今後空家が増えていくと懸念される。一方で都会からの移住者も僅かながらいる。いかに魅了ある地域をつくり、そうした方々を呼び込んでいくか考えていきたい。
- ・湊地区には以前から水道の問題がある。対応について市長へ要望し、徐々に改善されてきている。
⇨条例中に、市政運営へ市民の声を議会経由でなく直接届けるための各種制度等を位置づけたり、地域内分権により行政から権限・財源を地区へ移譲し地域自らが解決できるような仕組みを位置づけて対応していくことも可能。ただ、この辺の線引きは十分に議論を重ね解を見出していく必要がある。
- ・条例の内容は広範であり難しい。
- ・会津の風土として上下関係が厳しく、そうしたことが若者のまちづくり離れに繋がっていると思う。そうした風土をいい意味で変えていくための条例であってほしい。
- ・湊地区では地区住民の交流を図るため、土日に集会所を開放する取組を始めた。住民同士の交流を促すことで、地区の活性化を図っていきたい。
- ・地区の課題として最たるものは「除雪」である。高齢化が進み対応が難しい中、集落の共助・ボランティアで何とか対応している状況。今後更に高齢化が進めば対応ができなくなる懸念。
- ・湊は無医地区であり、中心部へ通院するのに往復で数千円の交通費がかかる。年金暮らしの高齢者には厳しい状況。交通手段の整備も課題。
- ・都市内分権の必要性
湊地区は中心部とは環境が全く異なり、条例には地域特性を踏まえた対応が必要な旨、配慮が必要である。今年、湊地区地域活性化協議会が発足した。都市内分権の第一歩と考えている。今後の課題として、地区割りにについても考えていく必要がある。

以上